

議事録

会議名	令和4年度第1回 稲城市地域公共交通会議
開場日時	令和4年8月1日(月) 午後2時から午後3時まで
出席者及び 欠席者	<p>(委員) 鈴木文彦会長、二見信義副会長、米澤暁裕委員、早田俊介委員、進藤直人委員、松永健委員、坂井紘子委員、城所正男委員、増田幸雄委員、山口真理委員、青木秀二委員、宮向康世委員、牛尾陽一委員、堀田耕一郎委員、吉越守委員、塚原輝浩委員、山田弘委員、大塚広満委員</p> <p>(事務局) 都市建設部長 小澤 管理課長 浜中 管理課交通対策係長 軍司 管理課交通安全担当係長 高瀬 管理課交通対策係 若菜 管理課交通対策係 山本</p> <p>(欠席者) 佐藤勝太委員、板垣洋介委員、榎本勝美委員、佐々木朗委員</p> <p>(代理出席) 清家裕之委員 代理 田中氏 藤原廣彦委員 代理 渡辺氏 古谷弘文委員 代理 池野谷氏</p>
会議次第	<p>1 開会 2 都市建設部長挨拶 3 議題 (1)令和3年度 i バス乗車人員実績について(報告)…資料1 (2)小規模コミュニティ交通実証実験結果について(報告)…資料2 (3) i バスAコースの経路変更について(報告)…資料3 (4)南山東部地区区画整理事業について(報告)…資料4 (5) i バス新車両の購入について(報告)…資料5 (6)令和3年度 i バス乗降調査について(報告)…資料6 4 閉会</p>

1. 開会

2. 都市建設部長挨拶

部長 皆様、改めまして本日はお忙しい中、また、猛暑の中、令和4年度第1回稲城市地域公共交通会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より稲城市の市政運営にご理解、ご協力を賜わりありがとうございます。

私は、本年4月の人事異動により前任の久家に代わり、都市建設部長に着任いたしました小澤と申します。今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、稲城市地域公共交通会議は、地域バス事業その他の実情に即した輸送サービスに関することにつきまして協議をいただくものでございます。

本会議につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、こうして委員の皆様と顔を合わせて会議を開催するのは約2年ぶりになると伺っています。その間、国による緊急事態宣言や外出自粛要請等により市内コミュニティバスの利用者数も大幅に減少いたしました。徐々に回復の兆しも見え始めており、今後も皆様方のご協力を賜わり、安定した運行に取り組んで参りたいと思います。

今日は、多数の報告議題がございますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。

3. 議題

会長 改めまして、地域公共交通会議会長の鈴木でございます。今もご案内がありましたように、久々の対面会議となりました。大体、今年度あたりから対面の会議ができるようになってきたかなと感じております。ただ、感染者数自体は増えておりますので、この先まだ見えない部分もあり、そのような状況の中、交通を取り巻く業況もこの2年間の間に随分変化もしています。コロナで利用者が大幅に減った一昨年から去年にかけて厳しい面もありましたが、今、人の行動そのものは過去に戻りつつあって、それでまた感染者が増えている中で、結局、感染者が増えるということは、それに関係する濃厚接触者であったり、様々な要因が出てくる中で、なかなかその担い手の出勤ができないところによる厳しさというものが、今年度に入ってからかなり目立ってきていると思います。これは小田急バスさんに限ったことではなくて、全国のバス事業者さんと話をすることもありますが、全国共通の抱えている問題だと思います。地方でもまだ休日ダイヤで運行しているバス会社さんもたくさんあります。そういう中で、今後、一体移動の需要がどのようにかかわってくるのか、それから生活そのものに変化がありますので、そういった状況を見据えながら、今後の地域交通のあり方を考えていかなければなりませんので、色々と議論を進めていきたいと思っています。

(1) 令和3年度 i バス乗車人員実績について

～事務局より説明～

会長 今、事務局からの報告で令和3年度の人員は増加しているとの事ですが、コロナ渦中の令和2年度との比較ですので、全体としてはコロナ前の約8割くらいとの報告でした。私に関わっている他の自治体のコミュニティバスの実績もほぼ同様です。実際運行されているバス事業者さんの感触はいかがですか。

委員 先ほどご説明いただいたとおりコミュニティバスと同様、傾向としては令和2年度が一番落ち込み、3年度は回復している。ただし、31年度には及ばない。全国的な傾向なのかなと感じています。

委員 現在で言いますと、コロナ前の80%くらいか、ちょっと上くらいだと思います。ですが今、コロナがまた感染拡大しているところで、しばらくはその影響もなかったですが、7月の第4週くらいからまた落ち込んできているのかなと思います。これが人流抑制がかかってしまうと3割減とか大きなマイナスになってしまいますが、現在はかろうじて持ちこたえているところ。この第7波までは少しずつ良くなっていたので、90%くらいまで

行くかなと思っていたのですが、また再拡大ということで水を差されてしまったような形となっています。会長がおっしゃる通りバスの乗務員も感染者が増えており運用も厳しくダブルパンチで厳しい状況が続いています。

会長 去年よりは少し良くなっている状況のようですが、今後も注視していくということで、今後も逐次ご報告いただければと思います。

(2) 小規模コミュニティ交通実証実験結果について

～事務局より説明～

会長 タクシーを活用した実証実験はこれまでに2回、有償無償と実施したけれども利用率は低調で運行は難しいとの説明でした。そのかわり、地域貢献事業として社会福祉法人による無償の送迎サービスを拡大もしくは新たにといったような検討をいただいているとの報告がありましたので、この辺が無理のない範囲でできれば、上手く回せる可能性があるのかなと感じています。

委員 いつ頃からワゴンが増便されるのか、目標時期などはあるのでしょうか。

事務局 無償運行については、あくまで平尾会・正吉苑のご厚意で実施して頂くものですので、こちらからいつまでにといったお話は出来ていない。平尾会・正吉苑にお任せしているのが現状です。

委員 そうすると年度を明けて来年度以降になる可能性もあると。

事務局 可能性としてはそうです。

委員 前回の市民代表者合同検討会でたくさんのご意見を頂きましたが、早速、事務局の方から働きかけを行った結果、2つの団体から前向きな回答をもらうことができました。今、質問があったように、このまま単に時間が経ってしまうのではなく、失礼のない範囲で定期的に打診をしていただいて、絶えないようにしてもらいたい。7月に平尾地区の自治会会議でタクシーの利用について見送りになりそうだと報告したところ、地区代表者の2名から、何とか充実の方向で考えてもらいたいとの意見がありました。その中での、今回の前向きな報告ですので、是非つなげてもらいたいと思います。

会長 地域貢献事業については、その事業者さんのできる範囲で進めてもらうのが本来の姿ですので、あくまで無理が無いように、ご厚意でやっていただく。情報交換は常にしながら今後に向けて進めてもらえればと思います。この平尾会の移送の地域貢献事業は全国的にも素晴らしい取り組みだと思っていますので、この先、ちょっと続けるのが難しいから止めることにならないように、上手に地域と市と平尾会、そして正吉苑と連携して地域の生活を守れるような形に育ててもらえたらと思います。

(3) i バスAコースの経路変更について

～事務局より説明～

(意見なし)

(4) 南山東部地区区画整理事業について

～事務局より説明～

委員 前回の市民代表者合同検討会でも質問させていただきましたが、その後の進展は何かありましたでしょうか。具体的には地図の左下のブルーの部分、ブルーの奥の方は遠い将来、交通的に不便な状況にならないのだろうかと危惧しています。話を伺うと、稲城駅からよみうりランドに通じる大きな道路については将来的にはバスの運行を検討されているようですが、その奥については状況を把握できていない。新しく開発されたところで、入居当時は皆さん若くて、車もあって、走ることもできて、距離的にも大したことはないと思われるかも知れませんが、30年40年経ったら、もうアウトです。全然外に出られなくなります。事例が正しいかわかりませんが、小規模コミュニティ交通実証実験のような問題に発展しかねないと危惧しています。30年40年先の事ですから、もしかしたら空飛ぶ車が出来ているかもしれませんが、いずれにせよ、今の段階で対策を考えておいた方が良く考えています。

事務局 地図の青い部分はC工区と呼ばれる部分ですが、先週、この南山東部地区区画整理組合とバス事業者、市の3者で協議の場を持ちました。その中で、まずはこのC工区の中でバスの転回場の設置の検討や、この場所をぐるっと回る周回するような運行経路ができないかの協議を図り、現在も継続協議中です。

委員 いずれにせよ、区画がきちんとできてしまってから考えるのは難しいと思う。やはり、本来はその前に結論を出すべきだったと思います。

委員 民間のバス会社さんは南山のルートを検討されているのでしょうか。

委員 大型バスが走るルートは真ん中の大きい道でないと難しい。基本的にはこの道を走るルートが大前提で、稲城駅からよみうりランドやジャイアンツ球場を繋ぐルートになるのかなと思います。先ほどのC工区については、途中までの太い道は大型バスも通れますが、そこから先は正直厳しい、実際走れば大きな苦情になると思います。希望とすればこの途中までの太い道路で転回できればなどと思っていますし、その先まで行くのは難しいと思います。何かしらの方法がないか、事務局で検討してくれているところです。

委員 大型バスの運行とすれば、やはり真ん中の大きな道路を通るのが大前提だと思います。C工区については折返し場を作ってもらおうとか、ハード面が課題だと思いますので、関係者の方と検討を続けていきたいと考えています。

会長 このC工区の道路幅はもう決定しているのでしょうか。

- 事務局 この細い道は6 m道路となります。
- 委員 大型バスは難しいとして、i バスも通れないですか。
- 委員 通常のコミュニティバスも扱っていますので、経験則からお話させてもらおうと、6 m道路でも走行はできると思います。ただし、走行できるのと地域の方が受け入れてくれるのかは別物だと思っています。実際走ってみて感じたことは、普通乗用車のすれ違いに気を使う位の道幅、子供が普通に遊んでいる地域なので、そこを小さいバスとはいえポンチョが走ることを地域の方が受け入れてくれるかどうかが大きな課題だと思います。もう一つはここにバス停が作れるかどうか。人の家の前や駐車場の前にはバス停を作ることができないので、正直この地域にバス停を作れる場所はないと思います。ですので、一般論的にはコミュニティバスとはいえ、簡単に通すことはできないかなと思います。
- 委員 もし、i バスも通れないような地域となれば、住環境に影響が出て、売る方にも買う方にも影響が出てくると思うので、区画整理組合にはきちんと働きかけをした方が良いと思います。
- 委員 事実確認をしたいのですが、左下の部分は令和5年度末供用開始となっていますが、道路はもう出来上がっているのですか。
- 事務局 概ね出来上がっており、実際使用できるのが令和5年度末となります。
- 委員 では、現在協議を行っているという事ですが、今、バス会社さんからi バスが通るのも難しいのではないかとのご意見がありましたが、具体的な解決策は。
- 事務局 路線バスおよびi バス含め、転回場の整備や周回の可能性を整理組合、バス事業者と協議を行っているところです。
- 委員 大きな進展だと思います。
- 会長 実際にバスが通れるかどうかは、道路の状況であったり、環境の整備の状況で変わってくると思いますし、こういった住宅街の中にバスを走らせたり、バス停を作ったりするのは厳しい課題だと思います。そんな環境の中でバスが走るという事は、利便性が高まる反面、騒音であったり、振動であったりの問題が発生することがあります。そういう事を調整しながら何らかの交通手段をという事になれば、やはりそこに居住している皆様のご意向などをきちんと把握し、地域の中でも議論をしてもらって、どういう方法が一番望ましいのかを考えていく必要があると思います。

(5) i バス新車両の購入について

～事務局より説明～

- 会長 今回購入するバスは外見上、既存の車両と変わりはないと思うので、是非、こういう事をやりましたといった事を市民にアピールしてください。

(6) 令和3年度 i バス乗降調査について

～事務局より説明～

委員 直接調査の事ではないですが、コロナ禍の中で、前に共同運行している若葉台駅－稲城駅の路線で片方だけが休日運行となった事があって、バスがすぐ来たと思ったら、1時間以上来なかったりと、ダイヤの変更をする時は、バスが来る時間に偏りがないようにバス会社さんには調整をお願いしたい。
要望です。

4. 閉会

会長 これです。これで令和4年度第1回稲城市地域公共交通会議を終了します。なお、令和4年度第2回稲城市地域公共交通会議は令和5年3月頃の開催を予定しています。

以上